

第29期 第4回北九州市スポーツ推進審議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年11月17日(木) 15時00分～16時00分
- 2 開催場所 小倉北区役所庁舎8階 811会議室
- 3 議題等 (1) 議題
① 令和3年度主要事業の報告について
(2) 報告
① ラグビー男子「日本代表 対 ウルグアイ代表」について
② 今後の国際スポーツ大会について
③ 北九州マラソン2023について
- 4 出席者 委員12名、事務局(北九州市)12名 計24名

【審議会委員】 磯貝 浩久(九州産業大学教授)
倉崎 信子(九州栄養福祉大学教授)
酒井 孝子(福岡県女子体育連盟理事長)
塩川 久美(北九州市中学校体育連盟)
長戸 操(門鉄広告社代表取締役社長)
中野 敏昭(福岡県高等学校体育連盟副会長)
中山 育美(福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事)
濱田 美佐(北九州市スポーツ推進委員協議会)
平野 月子(NPO法人北九州市レクリエーション協会理事)
眞鍋 厚毅(北九州市障害者スポーツ協会事務局長)
宮田 義高(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)
山本 浩二(北九州市立大学准教授)
※五十音順

【事務局】 柏井 宏之(市民文化スポーツ局長)
日々谷 健司(市民文化スポーツ局スポーツ部長)
大江 晃(市民文化スポーツ局スポーツ振興課長)
西村 猛(市民文化スポーツ局スポーツ施設担当課長)
森 善裕(市民文化スポーツ局マラソン担当課長)
井上 美紀(市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室長)
山根 英明(市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室次長)
ほか5名

5 会議経過（発言内容）

（1）議題

①令和3年度主要事業の報告について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答の上、原案どおり承認された。

委員：公共施設マネジメント計画とあるが、これは国が示しているものか。

事務局：公共施設マネジメント計画とは、平成28年2月に北九州市が策定したもの。具体的には、今後、維持管理等をする施設が増えてくることから、公共施設の総量抑制を行い、スポーツ施設の中でも、存続させる施設と廃止を検討する施設に分けて、計画を進めていくものである。

委員：県内には素晴らしいスポーツ施設があり、様々なイベントが、すべてそちらに持っていかれている現状がある。内村航平さんの講演会の中で、「北九州市立総合体育館で世界選手権が開かれることに対し、嬉しさと驚きがあった」との話があったが、驚きの中に、実は、施設の充実が足りないということがあったのではないかと取れた。そこで、今後、北九州市として新たなスポーツ施設の建設予定はあるか。

事務局：新たにスポーツ施設を建設する計画はないが、古くなって更新時期を迎えるスポーツ施設については、廃止して一箇所に集約し、複合施設を作っていくという取り組みになるかと思う。

委員：各地区にスポーツ施設があることは非常に大切であるかと思うが、大きな大会を開けるような、北九州市民が誇れるような施設を計画していただきたいと思う。その一つが総合体育館であり、北九州市民球場かもしれない。市に対する要望という形で考えていただければと思う。

委員：部活動の支援・強化について、今年度、学校の運動部活動が地域に移行されるとの提言が出された。資料の中で、外部講師（ボランティア）と記載があるが、外部講師に指導料等支払う動きはあるか。また、担当部局は、市民文化スポーツ局か、教育委員会関係か。

事務局：担当は教育委員会である。外部講師（ボランティア）とは、1回2千円、月額上限1万円で有償のもの。また、部活動指導員というのは、会計年度任用職員として市が雇用しており、これについては教員なしの単独での支援または大会への引率ができるようになっている。

部活動の地域移行については、今年度、スポーツ庁から委託を受け、本市では、5校5部活が実際に2学期9月から実施している。具体的には、「菊陵中学校野球部」「白銀中学校バスケットボール部」「篠崎中学校陸上部」「高見中学校卓球部」「穴生中学校女子バレー部」。こちらに関しては、スポーツ協会からご推薦いただいて、進めているところである。

(2) 報告

①ラグビー男子「日本代表 対 ウルグアイ代表」について 事務局より報告を行い、下記のとおり質疑応答があった。

委員：私も観戦に行かせていただき、非常に楽しい時間を過ごすことができました。ただ、チケットを手に入れる方法が少し難しかった。知り合いにも試合の観戦に行きたいがチケットの取得方法がわからない人がいた。当日券の販売も無かったため、そういった方が参加できなかったのではないかと。運営上の工夫があったらより素晴らしいイベントになったのではないかと思う。観客数11,664人は立派な数字かとは思いますが、スタジアムの規模を考えるともう少し入れるのではないかと思う。

事務局：ネット販売のみであったため、年配の方は中々使い慣れていないこともあり、難しいとの話はいくつかあった。そういった情報もラグビー協会にお伝えし、今後、協会の方でも対応していただきたいと思う。

事務局：コロナ禍ということで移行期間にあり、当日券の販売がしづらい状況にある。なので、また次に大会があるときには、当日券の販売が可能になっているかもしれない。どうしても人と人が触れ合うところについて、非常にナーバスになっているところがあったため、今回はネット上のみでの販売ということとなった。当日券が余っていれば、より観客が入っていたのではないかと思う。

②今後の国際スポーツ大会について

事務局より報告を行い、下記のとおり質疑応答があった。

委員：ブレイキンの世界大会について、私もワクワクしている。ただ、事前の周知をどうするかが非常に大きな課題だと思っている。ジャンルは違うかもしれないが、北九州市にはDAPUMPのKENZO氏もおり、北九州市立高校のダンス部は日本一である。そういう中、北九州市が持っている資源を活用しながら上手く事前周知していただければと思っている。

事務局：地元の盛り上がりというのは、イベントをするときに非常に重要だと思っている。小学校、中学校の授業で体験してもらったり、あるいは地元でダンスをしている人たちにイベントを盛り上げてもらったりとか、そういったことも今後計画している。また、所属のSNSでの情報発信も含めて、大会を盛り上げていきたいと思う。皆さんも是非、宣伝していただきたいと思う。

会長：ブレイキン、東アジアホープス卓球大会、ツール・ド九州にて、北九州市は共催に入るのか。

事務局：ブレイキンも東アジアホープス卓球大会も共催。ツール・ド九州はまだ決まっていない。

③北九州マラソン2023について

事務局より報告を行い、下記のとおり質疑応答があった。

委員：ランナーのマイカップの持参について、北九州マラソンを楽しむ目的で参加する方たちが多いとは思いますが、一方で、タイムを気にするスピードランナーたちも同じなのか。

事務局：ハイブリッド型で紙コップによる対応もある。スピードランナーと言われる、3時間30分より早いランナーは当然タイムを気にするため、そういった方は申込時にマイカップの方にチェックをしてもらっていない。今のところは3割くらいのランナーがマイカップにチェックしており、紙コップとマイカップが両方選択できる形にしている。

委員：2次募集するというのは、定員の1万1千人集まっていないということであるが、これをどのように分析しているか。

事務局：北九州マラソンだけでなく、今年、それから来年の初旬にかけて開催される大会は軒並み、ランナーの集まりが悪い。原因としては参加料の高騰が考えられる。本市でも1万5千円まで上げており、多くの大会がそれくらいの金額である。また、2年空いたということで、ランナーのマインドの問題が大きな理由としてあげられる。加えて、遠方から来るランナーについては、交通費や宿泊料がかかってくることから、直前に中止にされた際の不安も考えられるため、そうしたことが主な原因ではないかと考えられる。

委員：預かったお金について、北九州市では返金していないということか。

事務局：今年の1月17日に2022年大会を中止にしたが、その際は1万5千円の参加料に対し、7千円相当のクオカードや、既に製品が出来上がっていた、Tシャツ・タオル・ポンチョなどを一緒にお送りした。

6 その他 傍聴者なし

7 問い合わせ先 市民文化スポーツ局スポーツ局スポーツ振興課 企画係
電話番号 093-582-2395